

結核の基本的知識と発生時の対応について

令和6年7月3日

県央保健所医事・難病支援課 藤井俊吾

〈参考〉

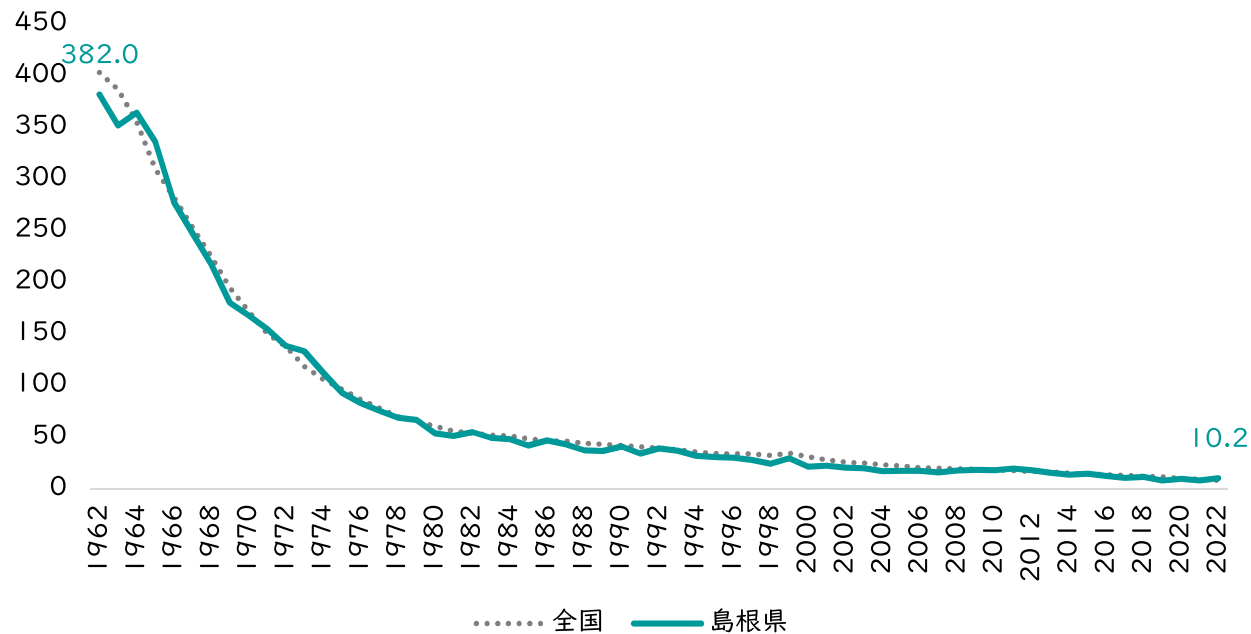
- － 介護職のあなたにこれだけは知ってほしい結核のこと
- － 高齢者 施設・介護 職員対象の結核ハンドブック(2016年7月)
公益財団法人結核予防会結核研究所対策支援部
https://jata.or.jp/outline_support.php

結核とは、そもそもなんですか

空気中にただよう結核菌が肺に入って感染し、それによっておこる病気です。

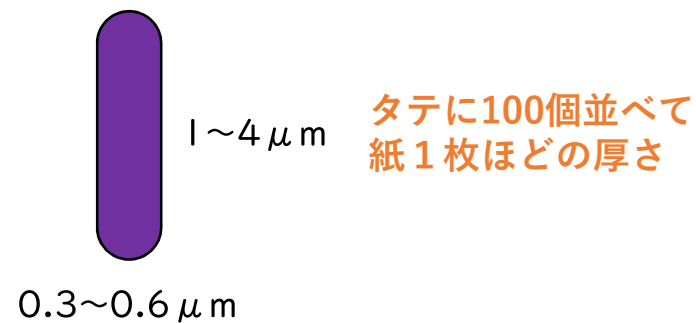
今でも高齢者を中心に、年間1万人以上の患者が発生しており、
島根県では、毎年新たに60人前後の患者が発生しています。

罹患率(人口10万対)



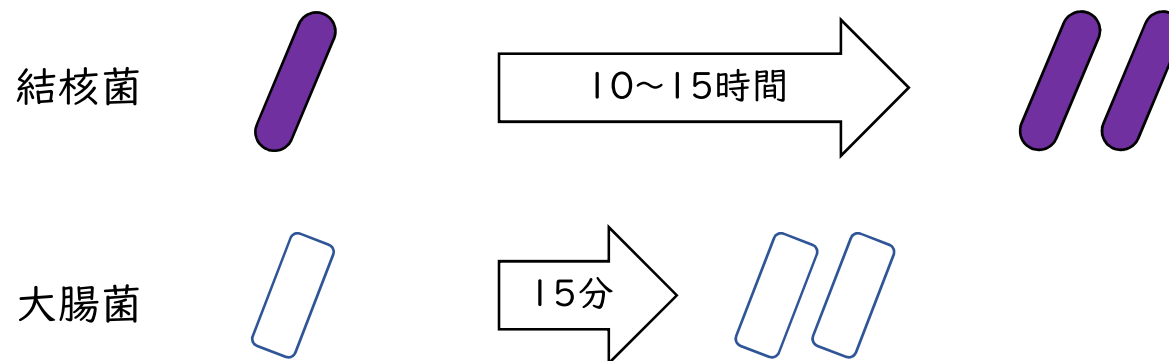
結核菌はどのような菌でしょうか

人の体に侵入して病気を起こす細菌の一種です。
とても小さいため、目で見ることにはできません。



高齢者施設・介護職員対象の結核ハンドブック
公益財団法人結核予防会結核研究所

結核菌の増殖速度は比較的遅いため、感染が判明するまでに時間がかかります。



どのように感染して、結核になるのでしょうか

結核患者(※)の咳やくしゃみに混じって結核菌が飛び散り、

周りの人が、空気中に漂う結核菌を吸い込むことで感染します。 ⇒ 空気感染といいます

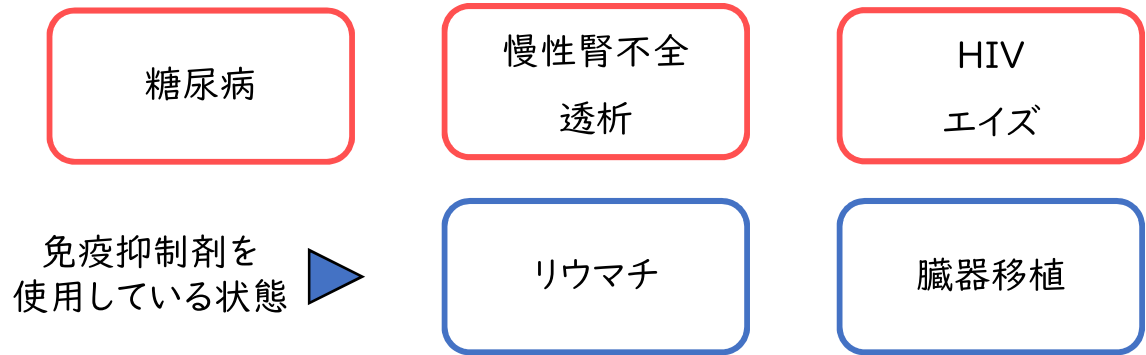
(※)痰の中に結核菌が出るようになった患者だけです

ただし、感染したとしても、実際に結核になる(発病する)のは2~3割です。

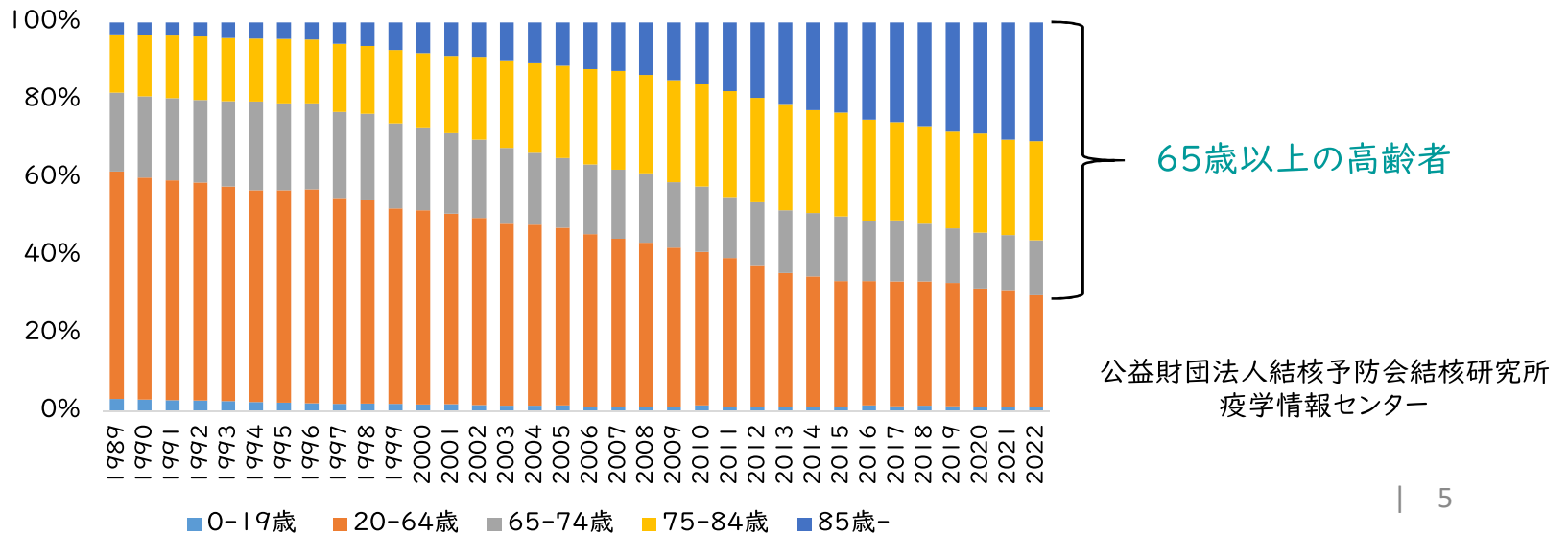


どのような人が結核になりやすいのでしょうか

免疫力の下がる病気にかかっている人、高齢者や乳幼児が発病しやすいです。



新規結核患者の年齢



結核はどのような症状が起こるのでしょうか

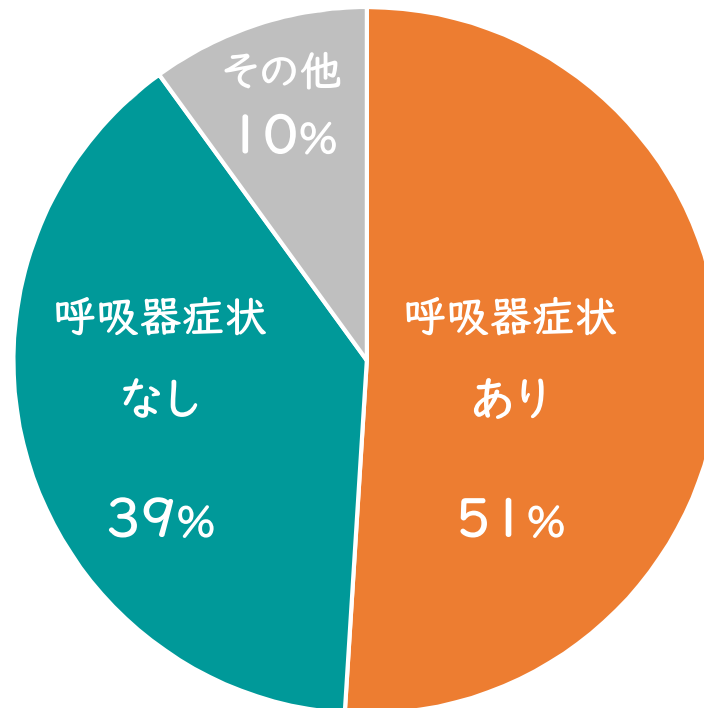
風邪のような症状が長く続きます。

ただし、高齢者の場合は、咳や痰などの症状が出にくい場合があるため注意が必要です。

高齢者結核発見時の症状

呼吸器症状なし

- 全身倦怠
- 食欲低下
- 発熱
- ADLの低下
- 腰痛
- 関節痛
- 腹痛



呼吸器症状あり

- 咳
- 痰
- 呼吸困難
- 血痰
- 胸痛
- 嚕声
- 胸壁のしこり

施設利用者の方が結核疑いになったらどうしたらよいのでしょうか

咳が出る利用者の方には不織布マスク(※)をしてもらいます。

他の利用者との接触を減らすため、個室等へ移ってもらいます。

(※)痰の検査結果がわかるまでは、介護者はN95マスクを着用しましょう

！注意！

痰の中に結核菌がない場合は、周りの人にうつすことはありません。

痰の中に菌がいる



入院治療

痰の中に菌がない



ふだん通りの生活

対応について心配な時は、県央保健所医事・難病支援課へご連絡ください。

結核になったら、どのような治療を受けるのでしょうか

標準的な治療では、6~9か月間、複数の薬を内服します。

ただし、合併症や副作用などのため、治療期間が延長となることもあります。

薬が4種類の場合 … 6か月

薬が3種類の場合 … 9か月

決められた期間、薬を飲み続けることが大切です。

保健所では、訪問や面接などにより、治療完了まで内服を見守る支援を行っています。

高齢者の場合、施設職員の方にも服薬支援者として、ご協力をお願いすることがあります。

結核患者に接触した場合、どうするとよいのでしょうか

周りの人に感染のおそれがある場合には、対象者に対して、保健所が原則無料で健康診断を行います。

健康診断の必要性を判断するため、詳細な聞き取り調査を行うことがありますので、ご協力をお願いします。

保健所が尋ねる主な情報

- － 患者の症状や定期健康診断の結果
- － 他の利用者や職員等との接触状況
- － 他の利用者と職員の健康診断の状況
- － 施設の行事、施設内の見取り図 など

結核に対して、日ごろからどのようなことに注意しておくといのでしょうか

利用者の方

日々の健康観察や定期的な健康診断をとおして、早期に患者を見つけることが重要です。

健康観察のポイント

印象：なんとなく元気がない
活気がない

全身症状：発熱（微熱の継続）
食欲不振（食事量）

体重減少

倦怠感

咳、痰・血痰、胸痛、呼吸のしづらさ

職員の方

1年に1度は胸部エックス線検査を受けましょう。

【参考①】 抗菌薬による症状改善で結核診断が遅れた事例

80歳代の入所者（女性）

3月	食欲不振が出現し、その後も持続
4月	医療機関で胸部エックス線検査を実施したが異常なし
5月	
6月	38℃の発熱があり、抗菌薬で対応
7月	
8月	改めて医療機関を受診した際、重症の結核と診断

結核診断後の接触者健康診断 ⇒ 発病 2人、感染 20人

長引く体調不良に対して、結核を疑って検査を
実施していれば早期発見につながった可能性がある

【参考②】 施設職員が感染源となった大規模集団感染事例

30歳代の職員（男性）

前年	定期健康診断を受診したが、肺の陰影を見落とされる
診断年	呼吸器症状が続き、結核と診断された 保健所の調査に対して、施設側は「接触者は事務室の職員のみ」と回答し、入所者への健康診断は実施せず
1～2年後	入所者の発病が続き、入所者とも接触があったと判明 接触者への健康診断が遅れたため、大規模な感染拡大となった

結核診断後の接触者健康診断 ⇒ 発病 37人、感染 47人

高齢者施設職員は、もしも発病した場合、
周囲の多くの人に感染させるおそれが高い集団であるため、
健康管理に特に留意する必要がある